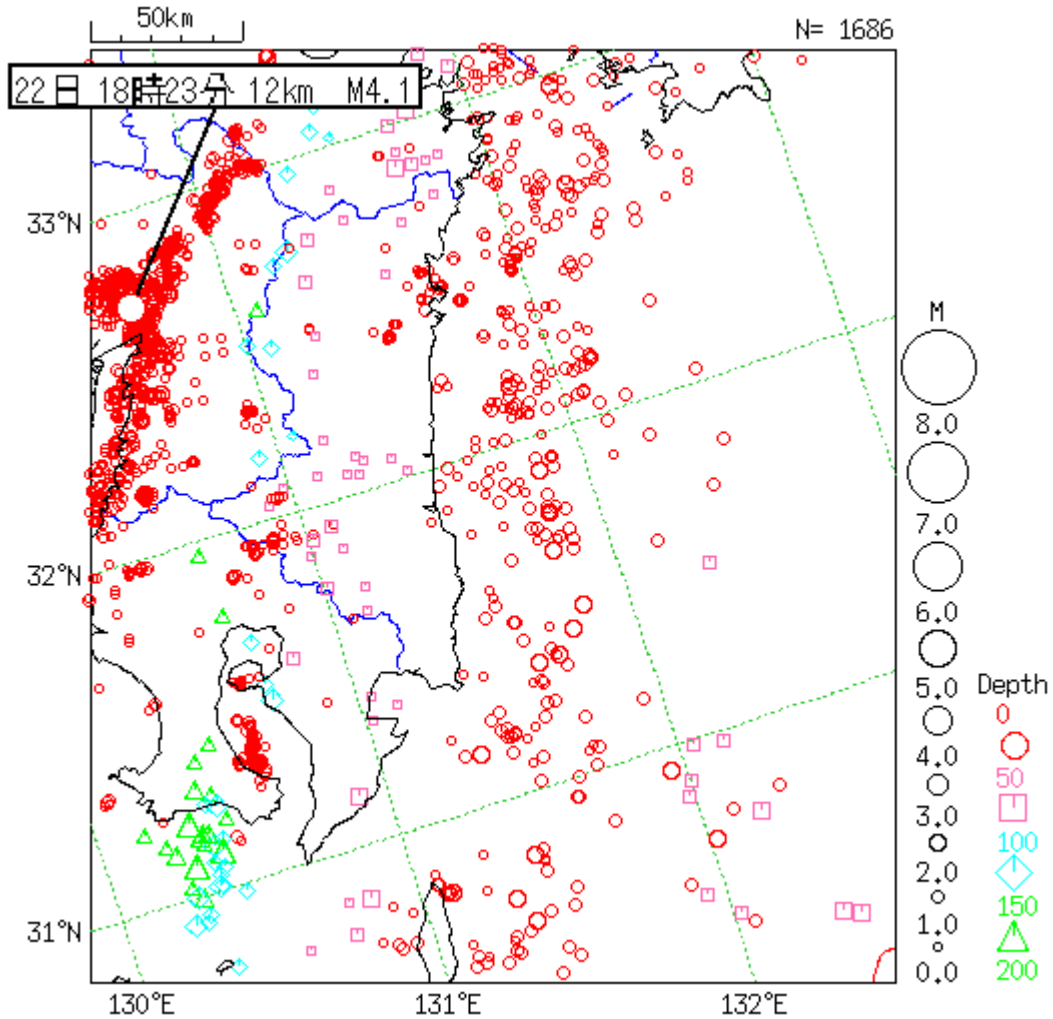


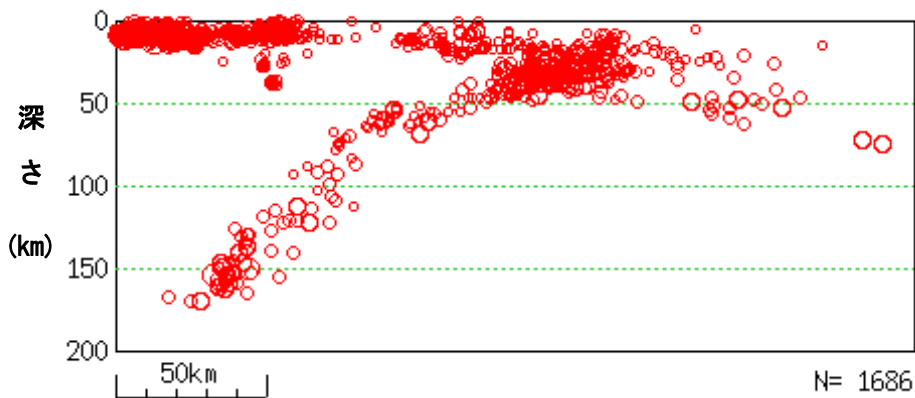
# 宮崎県の地震活動概況 (2018年8月)

平成30年9月11日  
宮崎地方気象台



**震央分布図 (2018年8月1日~31日、M0.0以上、深さ200km以浅)**

地震の規模 (マグニチュードM) は記号の大きさで、震源の深さを記号と色で示しています。  
宮崎県で震度1以上を観測した地震に吹き出しをつけています。



**断面図 (震央分布図の投影、深さ200km以浅)**

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。  
また、2016年熊本大地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

### 【8月の地震活動概要】

8月に宮崎県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回（7月は3回）でした。

### 【「平成28年（2016年）熊本地震」の活動域における地震の発生状況】

22日18時23分に熊本県熊本地方で発生したM4.1の地震（深さ12km）により、熊本県熊本市で震度4を観測したほか、長崎県、佐賀県、福岡県、熊本県、宮崎県および鹿児島県で震度3～1を観測しました。宮崎県では、小林市、西都市、川南町および高千穂町で震度1を観測しました（図1）。

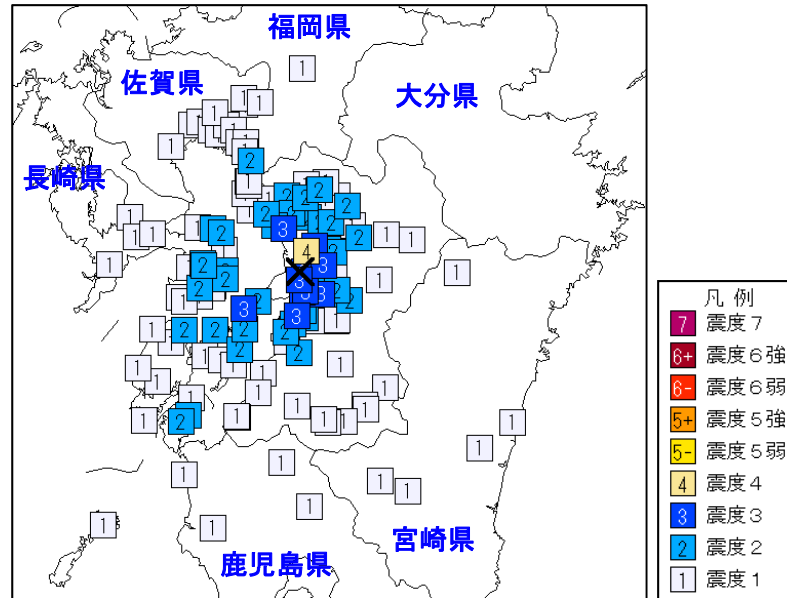


図1 震度分布図 (観測点別 × : 震央)

熊本県熊本地方および阿蘇地方における「平成28年（2016年）熊本地震」の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも継続しており、現状程度の地震活動は当分の間続くと見られます（図2、図3）。

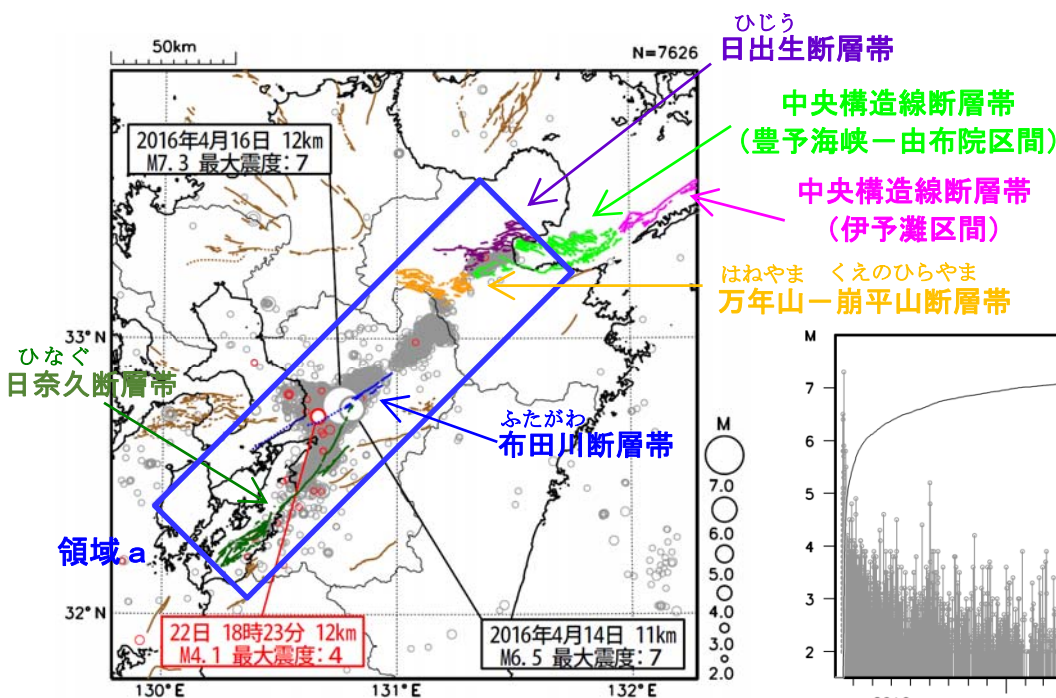


図2 震央分布図

(2016年4月14日21時～2018年8月31日24時、深さ0～20km、M≥2.0)

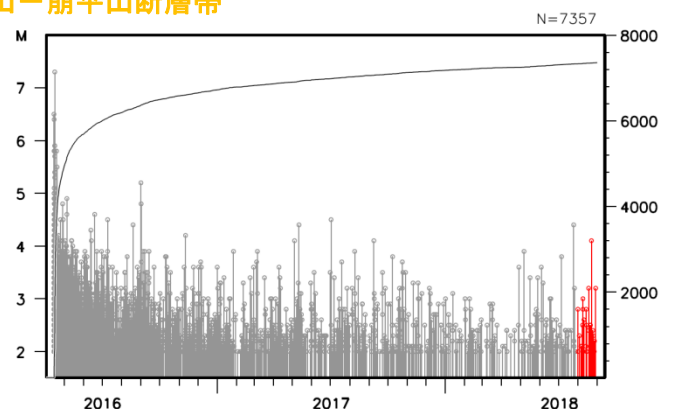


図3 図2の領域aにおける地震活動経過・回数積算図

2016年4月～2018年7月の地震を灰色、2018年8月の地震を赤色で表示。最大震度7を観測した地震および2018年8月に宮崎県内で震度1以上を観測した地震に吹き出しをつけています。

震央分布図中の青・緑・橙・紫・黄緑・桃・茶色の各線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

## 宮崎県内で震度1以上を観測した地震の表 (8月1日~31日)

震源時 (年月日時分) 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2018年08月22日18時23分 震度 1 : 西都市上の宮*, 川南町川南*, 高千穂町三田井, 小林市真方, 小林市野尻町東麓*	熊本県熊本地方	32° 42.8' N	130° 39.7' E	12km	M4.1

(注1) 使用した震源要素等は暫定値であり、後日修正することがあります。

\*は地方公共団体または、国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。

## 震度について

## ○計測震度計と震度

地震が発生した時に各地の揺れの状況を把握することは、地方公共団体や防災機関による初動対応において大変重要です。

地震による各地の揺れの強さは、全国約4,400か所<sup>※1</sup>に設置された計測震度計（図1）により観測され、「計測震度」として気象庁に集約されます。気象庁ではこれらの計測震度を「震度階級」（表1）に換算し、震度1以上の揺れを観測した地点があった場合、各地で観測された震度の情報を取りまとめて発表します。

気象庁が発表する震度の情報の利用に当たり、以下のことに留意してください。

①計測震度計は設置場所での揺れの強さを測定していますが、地中の地盤や地形の差異により地表の揺れの強さは変わります。例えば、同じ町内でも、震度にして1階級程度、揺れの強さが異なる場合があります。

②小規模な地震がごく浅い場所で発生した場合、震源付近の限られた範囲で揺れを感じる場合がありますが、震源付近にある計測震度計で震度1以上（計測震度0.5以上）の揺れとして観測されなかった場合、地震情報は発表されません。

## ○震度と揺れの状況

図2は、観測された震度とその周辺で発生する現象や被害の目安を示したものです。強い揺れに見舞われると、この図のような被害が生じるおそれがあります。

地震はいつ発生するか分かりませんので、普段から地震への備えを心がけておきましょう。

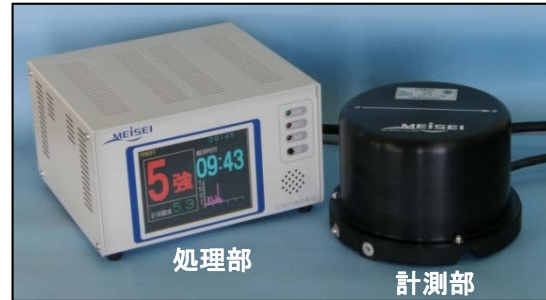


図1 計測震度計の処理部と計測部の例

表1 気象庁震度階級表

震度階級	計測震度	震度階級	計測震度
0	0.5未満	5弱	4.5以上5.0未満
1	0.5以上1.5未満	5強	5.0以上5.5未満
2	1.5以上2.5未満	6弱	5.5以上6.0未満
3	2.5以上3.5未満	6強	6.0以上6.5未満
4	3.5以上4.5未満	7	6.5以上

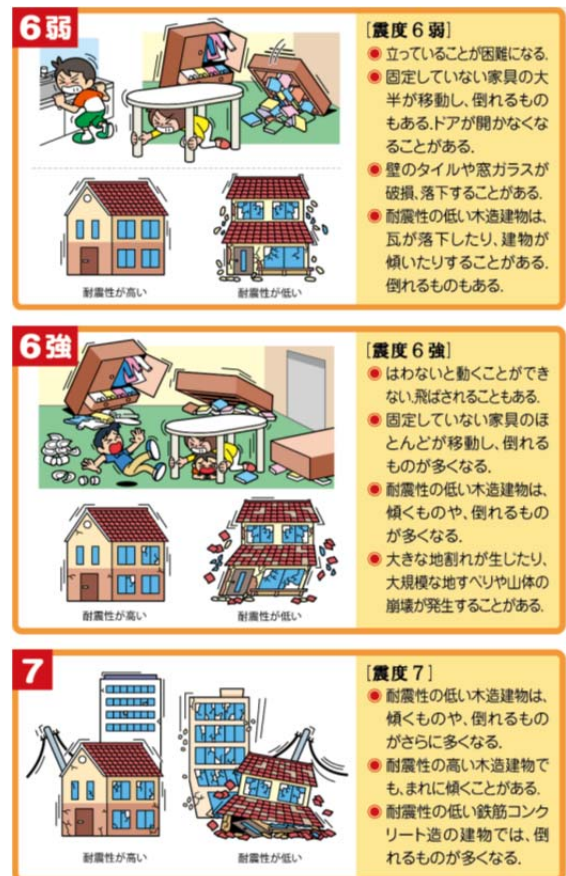


図2 震度と揺れの状況（震度6弱～7を抜粋）

※1 地方公共団体や（国）防災科学技術研究所の観測点も含みます。

震度と揺れの状況に関する詳しい説明（「気象庁震度階級関連解説表」）は、以下のURLからご覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

地震への備えについては、以下のURLからご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/shikumi/tokusei.html#2>